令和７年度　日本大学スポーツ科学部　個人研究費　研究実績報告書

所属： スポーツ科学部　競技スポーツ学科
資格： 教授
氏名： 山本　大

研究課題名	サッカー指導者養成講習会の受講生の実態調査および指導行動の分析
研究目的及び研究概要	【目的】 本研究は、「実践に役立つ優れたコーチングを科学的に解明する」ことを目的とし、JFA指導者養成講習会の受講生を対象に、指導者の言葉がけを構造的に分析する。アンケートやインタビューを通じて受講生の潜在的なニーズを明らかにし、指導実践の動画分析を加えることで多角的に検証する。さらに、講習会講師の評価を含めたデータを基に、AIと実践知を活用してグッドコーチングの指標を作成し、新たなコーチング理論モデルを構築する。 【方法】 受講生に対し、受講前後のアンケート調査と指導行動の録画・観察を実施する。アンケートでは属性や指導歴などを収集し、指導行動はCBORSを基に記録システムを作成し分析する。録画データはテキスト化し、映像を確認しながら研究従事者が内容を集計する。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	【研究の進捗状況】 令和7年度の講習会に参加し、以下の録画データを収集した。なお、本研究のデータ収集は令和6年度の科研費の助成を受けて実施した。加えてこれらの録画データとは別に、大学コースの指導実践の録画データを58本収集した。 コース名　動画データ　実施 Ⅰコース　134　終了 Ⅱコース　94　終了 Ⅲコース　95　終了 Ⅳコース　86　終了 Ⅴコース　118　終了 合計 527 大学コース　100　終了 総合計 627 参加者指導実践評価　211回分 指導実践振り返り　92名分（3/7修了の5コース分が追加予定） 【得られた成果】 上記録画データの取得 データ内の音声をテキスト化 テキスト化したデータを分類 評価から特徴の分析（前期3コース分） 分析結果をスポーツ言語学会で発表 【今後の課題】 本研究では、サッカー指導者養成講習会に参加する受講生の指導実践を録画し、音声を文字起こししたうえで、指導行動分析の枠組みに基づき発話内容を分類し、指導実践の評価が高い群と低い群のコーチングの特徴を明らかにすることを進めている。今後は、収集したデータの分析をさらに進め、両群の指導行動の特徴を整理・比較する必要がある。 一方で、本研究では分析対象となるデータ量が多く、指導行動分析による分類作業に多くの時間を要することが課題となっている。そのため今後は、ローカルLLMを導入し、エージェンティックAIを活用することで、指導行動分析に基づく発話分類の一部を自動化し、分析作業の効率化を図ることを検討している。